

あわせ
しばた
とんた
ゆみなく

発行
しばた正彦後援会
〒820-0602
九郎丸661-12
Tel 080-
4316-2581

コロナ給付金 全国の無駄づかいワースト100事業

《タンサ (Tansa) から》

- 福岡県桂川町 50万円
定額給付金が受けられない学生の保護者に10万円を給付
- 福岡県桂川町 363万円
電子ディスプレイの設置

12月議会の一般質問では、井上町長が立候補に際し発表された「抱負」の中から、8つの項目にしぼって質問しました。また、私の考えを提起しました。

★国の地方創生交付金等の有効且つ効率的な活用

タンサ (Tansa) は探査報道 (調査報道) に特化したジャーナリズム組織です。そのタンサは、コロナ対策として、地方自治体で、どのように地方創生臨時交付金 (第1・2次補正予算で計上された約3兆円分に限る) が使われたのか調べ、6万5千事業をデータベース化しました。

※ネットで、「Tansa コロナ給付金」と入れれば、内容が出てきます。

タンサは、6万5千事業

から、全国の無駄遣いワースト100事業を報じましたが、その中に、なんと桂川町の事業が二つも入っていました。

① 海外留学中で国の特別定額給付金が受けられない学生の保護者に10万円を給付

② 県道沿いに、感染症情報発信する電子ディスプレイを設置

①の留学中の学生に、コロナの給付金から10万円を出した事業は、町長が専決処分で行ったものです。

【専決処分】本来は議会が議決しなければならぬことを、時間的に議会の召集を待てない緊急な場合などに、行政運営の遅れや滞りを防ぐため、例外的に首長が議会の議決に代わり意思決定するもの

柴田：定額給付金を受けられない留学生の保護者に、なぜ10万円の給付をしたの

ですか。その理由を教えてください。

町長：海外に留学した学生で住所地を移している学生は、国から10万円が給付されなかった。海外に留学できる学生は家庭が裕福であつてという前提の意見はよく聞きましたけれど、私は一概にそうとは言えないと思つております。そういう意味からしまして、給付しました。

柴田：「一概にそうとは言えない」と言われましたが、実際にそんなにひっ迫していたのですか。

町長：ひっ迫していたかの調査をしていただけではありません。

柴田：まずいですよ。わたしはまずいと思います。調べもせず10万円渡したのはいまずいですよ。

タンサの指摘にどう思われていますか。

町長：私自身は特に感想はありませんし、実施してきたことに対しては、反省といつたことは考えていません。

留学生に10万円の話を聞いたのは全員協議会の席でした。私のマスクの下のはぼかんと開いていました。コロナのお金をそんなふうに使ったらいかんやろ、と思つたからです。でも、専決処分が終わつたことだし、今さらと思つて、何も言いませんでした。

あのとき言つておけば、と反省しています。そうすれば、その後行われた10万円の給付もなかったと思うからです。

国から児童手当が給付されている子育て世帯 (年収が約1000万円以下) に、子ども1人当たり10万円が給付 (2000人分) されました。これは選挙用のバラマキとも言われています。ところが、桂川町は、

給付されなかった約1000万円以上の年収がある子育て世帯に、コロナのお金から子ども1人当たり10万円を給付(34人分)したのです。

この予算は議案として出されたので、修正案を出して反対しました。結果は3対6で否決されました。

もし、留学生への10万円の際に、問題ありと言っていたら、その後の10万円はなかったのではとも思っています。

議員の仕事はチェックです。できていませんでした。反省しています。

電子ディスプレイ設置

タンサが指摘している「県道沿いに、感染症情報を発信する電子ディスプレイを設置」は専決処分ではなかったもので、予算審議をしました。結果は賛成多数でしたが、反対意見もいくつか出ました。また、所管でない文教厚生委員会の中でも疑問点を述べあっています。

ました。



柴田：ワースト100にあげられた電子ディスプレイ装置は、どうして設置されたのですか。

町長：新型コロナウイルス感染症に関する情報発信のツールとして設置したものです。また、町の中心部にあるということから、町のニューズやお知らせ等の発信に役立てているところです。

柴田：タンサはこの件については、ある程度の紙面をさいています。傍(はた)から見たら大丈夫なんか、ということになります。

町長は「ふるさと納税を大事にする」と言われています。毎日新聞の川柳に「次のようなものがありました。」「知っているふるさと納税した町だ」「知っているふるさと納税した町だ」。タンサの記事を見たときにリピーターが出ますか。ふぎけた町だ、金を持ちちよう町だ、としかならないのでは。危惧しています。



このあと、12月14日の西日本新聞社説「地方創生交付金 事前事後の点検見直し」を紹介しました。

「地方創生臨時交付金は物価高騰対策の財源として、九州の自治体では商品券や現金の給付、家電製品の買い替え補助などにも活用されている。いくら生活支援とはいえ、所得制限がなければ「ばらまき」との批判を招くだろう」

「そもそも交付金の使い道や効果に対する議会のチェックも甘いのではないか。予算や決算の審査では目を光らせ、不十分なら対案を示すべきだ」

確かに議会のチェックが甘かったと思います。ただし、前述したように、私は3月議会では予算の修正案を出しました。

「首長が交付金を使った予算を議会に諮らずに専決処分したため、監視機能が働かなかつた事例もある。九州でもコロナ関連予算で頻

発した。」

「首長の専決処分は極めて例外的な措置である。急を要する対策であっても可能な限り議決を得るのが筋だ。議会は安易に認めてはならない。」

戒(いまし)めとします。

柴田：今回のことを考えたときに、結局、町長が全部決めている。意見をどこで聞かれているのか。ほくら議員の意見は求められていないのです。採決の場だけしかない。その前が必要でしょう。だから、大事なことは、前もって議員全員との話をされませんか。もつと意見を交流することから始めませんか、平場(ひらば)で。そのような機会をつくつてもいいませんか。

町長：私としましては、現在でも議員の意見はお聞きしているつもりです。それが不十分ということであれば、確かに不十分な点はあろうかと思えます。必要に

応じて対処していくのが適当だと思っています。

柴田：コロナの問題は対処すべきだったと思っと思っています。年に何回か全員で話し合いませんか。個で話したって、みんなの問題になりませんので。

この場だと質問3回という制約があります。町長も反問権がありませんよね。町長も「では、あんたは、どう思っているかね」と議員に聞かれればいいのではないのでしょうか。

議長も、そういう機会をつくっていただけたらと思います。

もう一つ、町のみなさんとも意見を交流する必要がありますかと思いますが、意図的にそういう機会をつくられませんか。

町長：私自身としましては、現在も町の方の意見は聞いているつもりです。ただ、不十分な点があればどりくんでいきたいと思えます。

いずれにしても、意見の言いっぱなしで終わらないうちに、きちんとしたべスが必要と思えます。

柴田：一緒に考えていく、一緒につくりあげる、という発想が必要と思えます。

少ない紙面の多くを使いました。

議会と町長のあり方は、どうあるべきなのか。チェック機能として、議会はどのようにあるべきなのか。今の、これからの課題です。

★移住・定住促進のための支援策の充実

支援策の充実

町長は「定住促進・人口減少対策は基本的に多くの市町村が抱える課題だと思う。様々な課題はあるわけですが、特効薬があるわけではない。桂川町自体に魅力、あるいは住みたいと思うような町づくりが必要」と言われています。

しかし、この4年間、い

や10数年、何が行われてきたのでしょうか。具体的・有効的な施策をうていていません。

飯塚市は住宅取得移住奨励事業を行い、移住者が増えた。遠賀町は新駅舎建設に伴い、土地区画整理事業の組合を発足させ、町が組合の事業の一部を肩代わりして移住・定住を進めている。

太刀洗町は企業の誘致は周りの市や町に任せ、その分を子育てに集中させ移住・定住を進めています。桂川町も町議会も展開力がないのならば、それを認め、先進的な取り組みを行っている自治体に学べばいいのです。

柴田：ぜひとも一緒に視察し、学び合い、考え合う、そんな場が必要だと思えます。

★土師保育所の建て替え計画の推進

計画の推進

大塚議員の質問に、井上町長は「土師保育所の建て

替えが必要」と言われました。そこで、保育所と幼稚園を合わせた「子ども園」にする考えがあるのか、たずねました。

町長は「子ども園」にすることも選択肢の一つだと考えている」と言われました。

また、児童に対する先生の比率が幼稚園と保育所で大きく異なっています。幼稚園が優遇されています。先生の異動・交流を求めました。

★学童保育所の施設及び環境の改善

環境の改善

施設が分散し、老朽化しています。今後のとりくみをたずねました。

町長は「単独の施設をつくることは難しい。幼稚園の今後のあり方等を含めて考えたい」と答えられました。

★教育・保育体系の再構築と施設整備計画の策定

町長は「関連する施設・

関係法令などに注視し、とりくんでいく」と言われました。

また「子育て支援課を教育委員会の所管としては」という問いに「関係する課に意見を聞き検討しているところで、すぐにはできない」と答えられました。

後援会員募集 年会費1,000円

後援会員のみなさんには、ひと月1回『月刊しあわせばとん』をお届けしています。

『月刊しあわせばとん』には、『後援会だより』には書きにくい本音などを書いています。

申し込みは柴田まで

080・4316・2581

★30人学級の継続と学校教育活動の充実強化

30人学級は桂川町独自の施策で、井上町長になって行われました。「高い教育効果が期待できるので、今後とも継続していけるよう努める」と言われました。桂川町には、学力アップのための講師、特別支援教育支援員、不登校対応サポート教室指導員など、多くの町独自の施策もあります。

★ふるさと納税の取り組み強化

3年間のふるさと応援寄附金額	
2019年度	1207万円
2020年度	1億1127万円
2021年度	6201万円
2022年度	?

町長はふるさと納税につ

いて「新たな返礼品の提供や町の魅力発信に努め、貴重な財源確保にさらに努めたい」と言われました。

桂川町にとって貴重な財源ですので、みなさんも、町外の方に「ふるさと納税」のコマースィアルをしてください。



★ふくおか県央環境広域施設組合の新清掃工場の建設促進

町長：現段階で具体的なものを示すことはできません。先進地の視察や研修を通じて、地元九郎丸区及び本町の振興発展に寄与できるような施設を目指したいと考えています。

※一般質問について、詳しくはホームページをご覧ください。

あっち こっち どっち？

- 1月 6日(金) 文教厚生委員会
- 8日(日) 二十歳のつどい
- 11日(水) 広報委員会
- 12日(木) 二反田団地B棟落成式、議員研修(福岡市)
- 19日(木) 広報委員会
- 26日(木) 広報委員会
- 30日(金) 文教厚生委員会



ホームページ開設

ホームページをつくってもらいました。「桂川町議会議員 しばた正彦」と入れれば出てきます。もしは、<https://shibata-masa-hiko.com>

QRコードからも入れます。



12月議会の一般質問通告書・資料も見ることが出来ます。

<https://shibata-masahiko.com>